

富士山登山鉄道構想（概要）

富士山登山鉄道構想検討会（2021年2月）

1. これからの五合目アクセス交通の在り方

見直しの必要性

- ・ 来訪者数の増加に伴い環境負荷が懸念
- ・ 交通アクセスの在り方は来訪者の動態に影響 ⇒ 在り方検討が必要

必要な視点

- ・ 地球温暖化対策
- ・ 感染症対策（密の回避、安全・信頼の提供）
- ・ 富士山の保存と適切な利用の高次元での調和

ルート・システムの比較法制度への適合性、氷雪対応、緊急車両の通行、安全性・快適性などから、**富士スバルライン上へのLRT※敷設が優位**

※LRT：次世代型路面電車

2. 登山鉄道導入の基本方針

自動車から登山鉄道への転換

- ・ LRTを軸に、鉄道を整備
- ・ 既存の道路を活用
- ・ 許可車両以外の通行を規制
- ・ 架線レス等先進技術の導入

富士山の顕著な普遍的価値の保全と望ましい土地利用における付加価値の向上

- ・ 来訪者数を一定水準に抑制
- ・ 鉄道ならではの質の高い付加価値の提供
- ・ 富士山や地域への還元

富士山の抱える課題解決への貢献

- ・ ライフライン整備を検討
- ・ 信仰の対象にふさわしい五合目空間の在り方検討
- ・ 四季を通じた来訪者の分散



LRTの走行イメージ

3. 事業運営

事業主体・事業スキーム

- ・ 官民の役割分担を明確にしつつ、事業運営の方法を検討
- ・ 国等の支援スキームの積極活用

事業性の検討

- ・ 利用者数試算：往復運賃10,000円で約300万人
- ・ 収支試算の段階では、事業成立の見込み ⇒ 様々な要素を加味した精査が必要

4. 構想実現に向けて検討が必要な課題

- 登山鉄道事業の枠組みと事業運営体制
 - ・ 登山鉄道事業の枠組みの具体化、事業スキームや事業運営者の想定、官民の役割分担 等
- 関係法制度への対応
 - ・ 世界遺産影響評価等の実施、土地利用に係る各種法制度への対応、軌道法（鉄道事業法）に基づく事業認可、維持管理有料道路である富士スバルラインの取扱い 等
- 技術的課題の検討
 - ・ 厳冬期を含めた登坂及び制動性能の検証、架線レスシステム、運行支障への対応方策 等
- 登山鉄道と併せて検討すべき課題
 - ・ 噴火等の危機管理対応、富士スバルライン五合目の在り方、ライフラインの整備 等